

地域社会との密接な連携を築こう

— 家庭・地域につながる西中ブランド —

安城市立安城西中学校父母教師会

1 学区及び学校の概要

本校は昭和34年、市内4番目の中学校として開校した。昭和58年に生徒数1,000名を越えたことから新設校に分割されたが、今もなお生徒数839名の大規模校である。学区は5小学校区からなり、田園に囲まれた既存集落と新幹線駅周辺の新興住宅地があり、生徒の家族形態も複合家族や核家族など多様性がある。「誠実・勤勉・素朴」を校訓とし、保護者や地域とともにつくる学校をめざし、学校・家庭・地域のかかわりを重視した活動を例年開催している。

生徒も基本的な生活習慣、環境美化などの方法を考えることで、自らの行動や学校の伝統を深め進化させていくことの誇りの一助として、生徒各々が考える西中ブランドが定着している。

2 研究のねらいと仮説

人間関係の希薄化などで近年、家庭や地域の教育力の低下が課題となっている。そこで、親子の対話や地域で大人とかかわる機会を充実させ、生徒自身に本校の生徒である誇り、地域の一員であることの誇りを感じてもらい、地域全体で健全育成を図ることを本研究のねらいとした。

そして、学校・保護者・地域が、生徒の健全育成を願い生徒が考える西中ブランドについての意識を共有し、地域貢献活動に積極的に参加し交流を深めていけば、自分の通う学校、自分の住む地域に誇りをもち、地域社会の連携を築こうとする生徒が育つであろうと仮説を立てた。

3 研究の実践

(1) 保護者が地域・生徒とつながる活動

ア 地域別懇談会

生活安全委員会が中心となり、夏休み半ばに5つの地区に分かれて、保護者と地域と教師との懇談会を開催した。全地区での参加数は160名以上で、各地区役員や保護司・民生委員、市議会議員も出席し、地域や学校の現状や課題を話し合った。

懇談会から出された意見から、改善の必要性などを地域や学校における共有意識としてもつことができた。参加者からは、「良い機会となった」、「地域全体が安心安全な環境づくりに取り組んでいることを再認識した」、「来年も参加したい」などの意見が聞かれ、有意義で満足度の高い時間となった。



【多くの話題で意見交換】

イ 街頭指導（愛の一声運動）

夏休みと冬休みに生徒の行動範囲となる商業施設や遊戯施設の巡回街頭指導を実施し、直接声をかける活動を通して防犯・非行防止対策を行った。生徒と会うことで周囲の目を意識させることができ、各店舗の店員からも生徒のマナーについて良い評価を聞くことができた。

(2) 生徒が地域・保護者とつながる活動

ア ボランティア美化活動

各町内会・明治用水・PTAの協力で、地域や保護者、生徒、教師の約1,000名が、地域の環境に感謝し奉仕作業を行った。

生徒は、草刈機で刈り取った河川脇の草を抱えて運ぶ作業や歩道内の景観花壇の花植え、側溝や道路脇のゴミ拾いなど一生懸命に取り組んだ。生徒の頑張りに対し、地域の大勢の方からも励ましの声をかけていただき、生き生きとした生徒の笑顔を見ることができ、とても有意義な活動となった。



【真剣に作業する生徒たち】

イ あいさつ運動

あいさつは、情操教育の見地からも特に重要であることから、交通事故死ゼロの日に、学校の朝部活を休みにして、7時30分からの30分間、教師や生徒と一緒に各通学門に立ち、あいさつ運動を行っている。今年度は、この運動をPTA委員や一般保護者も加わって実施している。

校区内の小学生のための通学旗当番の保護者や主要交差点に立つ地域安全パトロールのボランティアさんの姿とあわせ、生徒は多くの地域の人に守られていることを自覚し、到着した校門では全ての生徒が大きな声であいさつができるようになってきている。



【元気な声であいさつ】

ウ 資源回収

福祉厚生委員会が担当する5月と12月の資源回収活動は12箇所を拠点とし、土曜日午後に全ての生徒と教師・PTA委員が協力して地域にお願いした資源を回収する。

普段通らない路地を数人で協力しながら重い新聞紙の束を運ぶ姿、工夫して自転車に多くの資源を乗せようとする真剣な姿を見ることができ、生徒が地域の宝であることを再確認できた。

4 成果と今後の課題

本校では、良好な地域連携が形成されてきたが、家族構成の多様化から変化も生じてきている。

地域の連携が維持されるには、生徒自身が地域に誇りをもち、学校・家庭・地域の架け橋となると自覚することが必要になってきている。生徒が認識する西中ブランドは、「黙働清掃」、「歌声」、「読書活動」等も提言されるが、中でも「あいさつ」を最も大切にしたいと考える生徒が多い。既に校内でのあいさつは素晴らしいものがあるが、地域においても、その行動が定着して欲しい。

また、PTAが能動的になることで地域別懇談会や美化活動では多くの参加者を得ることができた。そして、意見交換も活発になされ、相互の理解や交流が更に深まった。あいさつ運動に参加された保護者からも「学校に行きやすくなった」、「子どもから元気をもらった」等の声も聞かれるようになった。人間関係を円滑にするために最も大切な手段は、あいさつであると誰もが感じてきている。

私たちPTAは、あいさつから始まる人間関係を定着させることが、学校・家庭・地域が共に連携できる本校の伝統を継承していくことに繋がると考え、今後も大切にしていきたい。